

# 会長就任のご挨拶

公益社団法人 日本金属学会第64代会長 福 富 洋 志

この度、皆様方のご推挙により日本金属学会の会長を務めさせていただくことになりました。大変光栄に存じますが、長い伝統を有し、数々の成果を重ねてきた本会の先頭に立ち、公益社団法人として更なる発展を進める責任の重さを痛感しております。白井泰治、古原忠、細田秀樹副会長をはじめとして、理事、代議員、委員、支部および会員、ならびに山村英明事務局長および事務局の皆様のお力をいただいで、材料分野の発展のために、微力ではありますが全力を尽くす所存です。皆様方のご支援とご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

日本金属学会は、「金属に関する理論ならびに工業の進歩発達をはかること」を目的として、1937年に本多光太郎先生のご提唱により創設され、現在に至るまで金属およびその関連材料に関する研究成果を世界に発信する学会として活発な活動を展開して参りました。近年は、社会基盤材料をはじめ、エネルギー材料、エコマテリアル、電子・情報材料、生体・福祉材料、材料と社会と、対象分野も拡大し、まさに材料科学・材料工学の中心的学会となっております。先輩の方々が築きあげてこられた本学会を引き続き発展させるよう、努力を重ねて参りたいと存じます。

以下に本年度の主な活動について述べます。歴代会長ならびに新家光雄前会長のもとで進められてきた施策の成果を踏まえて活動を推進していく所存です。



## ○公益社団法人としての活動

公益社団法人として、本会は「金属及びその関連材料の学術及び科学技術の振興に関する事業を行い、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする」と定款で定めました。本年度で公益社団法人化して3年目に入りますが、本会は事業のすべてを公益目的事業として実施致しております。皆様のご理解、ご協力をお願いする次第です。

## ○刊行事業の活性化

日本金属学会誌の情報発信力を強化するために、これまで様々な施策を実施して参りました。2013年には電子ジャーナルの個人研究目的に限定したフリーアクセス化、2014年には Graphical Abstract の掲載、投稿・掲載料の無料化を開始しました。本年度もこれらを継続致しますと共に欧文誌との記事区分の共通化、新たな記事区分の設定などによる学会誌の充実を図ります。

欧文誌 Materials Transactions 誌の情報発信力を強化して国際誌としての評価を向上させるため、2014年に、電子ジャーナルの個人研究目的に限定したフリーアクセス化範囲の刊行後半前までの拡大、トムソン・ロイター・プロフェッショナル社に委託した掲載論文の文献引用通知サービス、同社による年1回の世界の材料研究者約5,000名への一斉情報配信サービス等様々な施策を開始致しました。本年度もこれらを継続すると共に、学会誌と歩調をそろえて内容の充実を進めます。今後も情報発信力を強化するために新たな方策を検討・実施致して参ります。会員の皆様からご提案いただければと存じます。

これらの施策による学会誌や Materials Transactions 誌の充実は、学会のプレゼンス向上をも意図しております。しかし、以上の取り組みを行うために欠かせないのが質の高い論文を掲載することであるのは改めて申し上げるまでもありません。会員の皆様の積極的な投稿をお願いする次第です。

会員のための情報誌である会報の充実も本会の活動には欠かせません。2014年1号から各号の表紙、目次、会告記事および本文記事のすべてをPDF化した電子ジャーナルも発行し、情報流通性の向上に努めております。今後も内容の充実を進めて参ります。

#### ○講演大会の充実

学術誌の刊行と共に講演大会は学会活動の中心的な行事であり、学術の発展の場として様々な分野の方々が交流を深め、議論を尽くすことができるよう、常に充実を図っていく必要があります。本年も引き続き講演大会セッション改編のフォローアップやポスター賞審査の改善等を進め、講演大会の活性化に努めて参ります。

#### ○国内外学協会との連携と国際活動

国内では日本鉄鋼協会との緊密な連携を基本に、材料戦略委員会、男女共同参画委員会、Materials Transactions 共同刊行編集委員会等を通して材料系学協会との連携活動を強化して参ります。また、日本技術者教育認定機構(JABEE)との連携も推進します。

国際連携では、大韓金属・材料学会(KIM)とのKIM-JIMシンポジウムの開催、米国The Minerals, Metals & Materials Society(TMS)とのJIM/TMS Young Leaders International Scholar Programによる交流を継続推進すると共に、中国金属学会(CSM)との国際会議共催等の検討を行います。また、材料分野の国際連携組織であるInternational Organization of Materials, Metals and Minerals Societies (IOMMMS)との連携事業であるWorld Materials Day Awardも継続して実施いたします。さらに、2016年8月に国立京都国際会館で開催されるPRICM9国際会議について、主催学会として責任を持って開催準備を進めて参ります。

#### ○会員増への取り組み

会員数の増加は、学会活動活発化の基盤です。上述の学術誌の充実、講演大会の活性化をはじめ、分野を超えた若手研究者の組織化、高校生向けホームページの創設準備、企業の若手人材育成のための出前講義、講演会や講習会を中心とする活発な支部活動、などの多様な活動によって本会の価値を示し、会員数の増加を図っていく必要があります。

#### ○材料戦略活動の推進

NEDO「革新的新構造材料等研究開発」や内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」などで構造材料が取り上げられ、材料研究への期待が高まっています。材料戦略委員会を中心に、情報の収集に基づいて本会の材料戦略を推進して参ります。第5期科学技術基本計画策定への提言の検討および科学技術イノベーション総合戦略に基づく材料分野の研究開発支援にも積極的に取り組んで参ります。

以上のように、本会の活動を活発化し、材料科学・材料工学の中心的学会として我が国ならびに世界の材料研究の高度化に貢献できるよう努力して参ります。会員各位ならびに事務局のご理解、ご協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2015年4月24日